

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

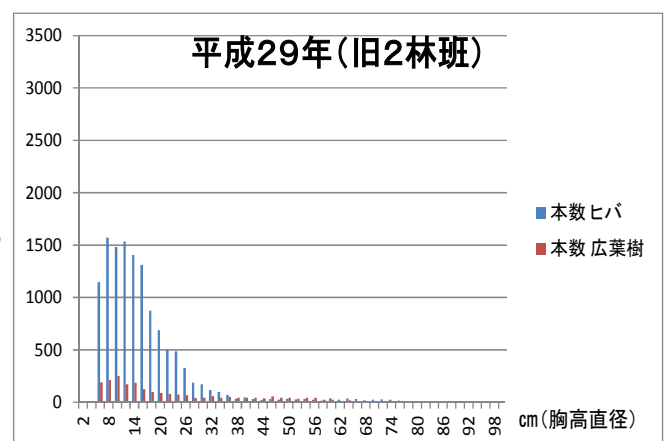
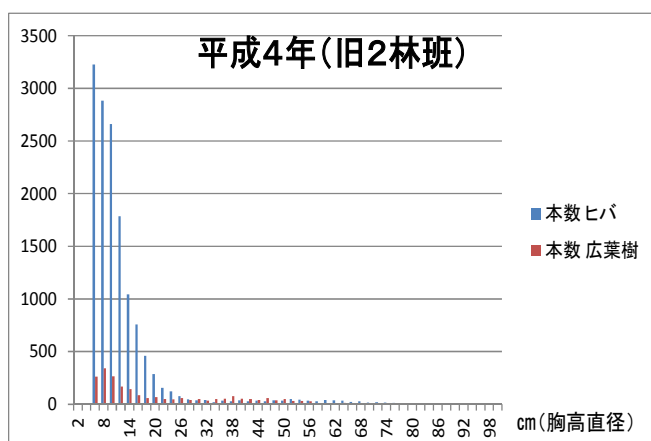
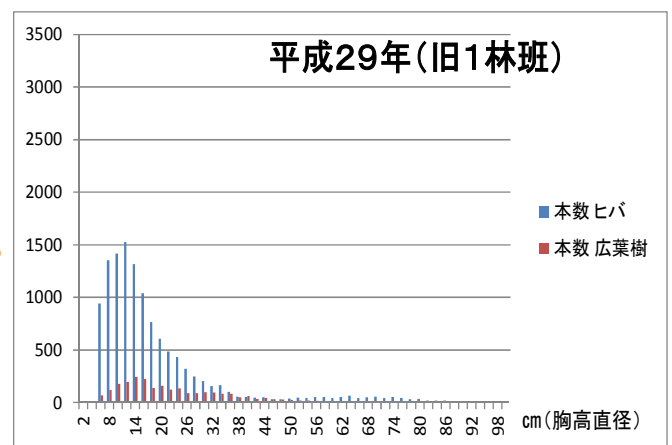
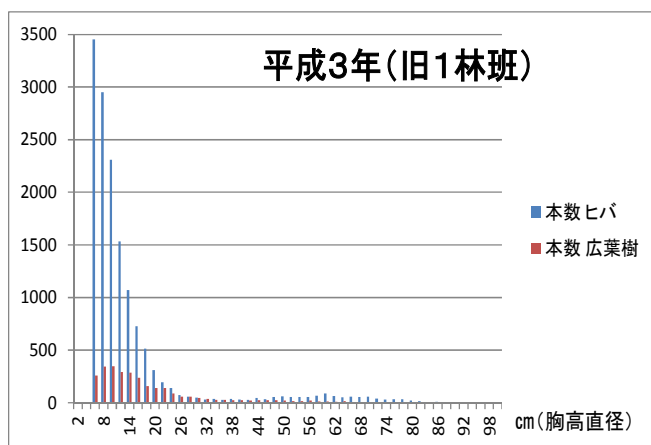
FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

増川ヒバ施業実験林の現地調査の状況について

増川ヒバ施業実験林では、松川恭佐氏の施業法を経営的に実証する択伐施業が行われてきました。しかし、中小径木が主体の林分が増えてきたことから、大中小径木がバランスよく配置された林分に誘導するため、間伐等を実施するという施業方針のもと、毎年計画的に全本数調査やその結果に基づき森林施業を実施しています。

この実験林は旧1～10林班の林分状況を把握するために、毎年旧1林班ずつ全本数調査を行っています。今年度の取組は、6月に青森森林管理署、青森事務所および当センターが合同で実験林の旧1・2林班の約25haで全本数調査を実施し、径級別本数及び林分蓄積等の状況についてデータを記録しました。このデータからは前回調査よりもヒバの小径木の消失とともに小径木から中径木に移行しつつある林分であることがわかりました。また、広葉樹についても小径木から進級しつつあることがわかりました。 (増田)



岩手大学演習林視察について

平成29年6月9日（金）に岩手県滝沢市にある岩手大学滝沢演習林を視察しました。岩手大学滝沢演習林は盛岡市の北に位置し、面積は約281haになります。昨年度から技術開発として、早生樹についてすすめており、岩手大学演習林にある広葉樹の見本林のユリノキを視察しました。演習林にあるユリノキは56年生の林分と41年生の林分の2種類があり、41年生の林分は1000本/haで植栽、約10年前の調査で平均胸高直径26cm樹高22mであった。一方、56年生の林分は2750本/haで植栽、約10年前の調査で平均胸高直径25cm樹高22mであった。

今年の春、間伐（間伐率20%）を56年生と41年生の林分の両方で実施しており、伐根の様子から植栽して十数年間は年輪幅が1cm程度あり、初期に急激な成長を示していました。その後成長スピードは鈍化しますが、成長は早いようです。これらの視察を踏まえ、早生樹の特性等について引き続き、調査を進めていきます。（小笠原・増田）

十三湖・五月女菴（そとめやち）クリーン作戦



平成29年5月31日（水）、津軽森林管理署金木支署管内五月女菴防風林において実施されたクリーン作戦に、当センターから3名が参加してきました。

当日は曇りで気温もそれほど高くありませんでしたが、この日はいつもより風が強く、せっかく集めたゴミを風にあおられてゴミ袋から出してしまったりと悪戦苦闘の作業でした。昨年よりは少なく感じましたが、それでもゴミ収集車1台分になったようです。どこに行ってもそうですが、マナーを守らない、平気でゴミを捨てる者が絶えないのは残念です。おまけで、後日新聞に写真掲載され、脂肪処分(Diet)を決意したところ。（金澤・松橋・鳴海）

森をさんぽ

増田です！



森林技術専門官
増田 悠介

東北にも夏がやってきました。今年は、東北は気温が低い日が続き、雪解けが例年より遅くなっており、花の開花が遅れています。夏に湿原や草原を歩くと、様々な植物が花を咲かせています。

そこで、目を引くのが黄色の大型の花ニッコウキスゲ（ゼンテイカ）です。このニッコウキスゲは東北の



湿原を代表する植物で、この季節湿原を黄色の絨毯で染めあげます。しかし、ニッコウキスゲの花期は短く、朝に咲き夕方にはしぼんでしまう一日花で、翌日には次の花が咲きます。このニッコウキスゲですが、近年ニホンジカの増加により、尾瀬など各地で食害などが問題になっており、東北でも今後、同じような被害が出てくるかもしれません。夏の暑さを避け、可憐なニッコウキスゲの咲く湿原や山などに行ってみてはいかがでしょうか。

編集後記

東北地方も梅雨入りしてますが、青森県では例年より降雨量は少ないようです。九州地方では「今までに経験したことのない降雨量」で大変な状況になっていますね。先週は北海道で震度5弱の地震が起き、直後に熊本でも震度5弱の地震が・・・いつ、身近にやってくるかもしれないこの自然の驚異を心得ておきましょう！

